

問1 中国の歴史書『宋書』に記されている、ワカタケル大王（雄略天皇）と同一人物と考えられる王を何という？

問2 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？

問3 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？

問4 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？

問5 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？

問6 稲荷山古墳などの出土品に名前が刻まれ、その支配が九州から関東まで及んでいたとされる大王は誰？

問7 3世紀後半からヤマト王権において、各地の豪族を従えていた最高権力者を何という？

問8 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？

問9 古墳の周囲に立て並べられた、当時の権威を示す土製の焼き物を何という？

問10 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

問11 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？

問12 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？

問13 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？

問14 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？

問15 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？

問16 5世紀ごろ、渡来人によって大陸から日本へもたらされた、記録を可能にする文字体系を何という？

問17 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

問18 埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、その名が刻まれているヤマト王権の最高権力者は誰？

問19 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？

問20 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？

問21 5世紀ごろ、百済の博士として日本に派遣され、漢字とともに儒教を伝えた人物は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 倭王武	中国の歴史書である『宋書』には、倭国の王の名前が記されており、その中の「武」は、国内の遺跡から発見された鉄剣の銘文にある「ワカタケル大王（雄略天皇）」のことだと考えられています。これにより、日本の歴史がアジアの国際情勢の中で位置づけられるようになりました。
問2	答え 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号で呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。
問3	答え 聖徳太子	聖徳太子は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。「十七条憲法」を制定して役人の心構えを示し、「冠位十二階」で才能に基づいた官職登用を目指しました。また、法隆寺の建立などを通じて仏教文化を保護し、国全体に新しい文明が定着するように努めました。
問4	答え 倭の五王	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問5	答え 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問6	答え ワカタケル大王	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に金象嵌で記されています。これは、この大王の権力が東国から九州まで、列島の広範囲に及んでいたことを如実に示しています。一般的には、記紀に見える雄略天皇と同一人物だと考えられています。
問7	答え 大王	ヤマト王権の長は「大王（おおきみ）」と呼ばれ、各地の豪族を服属させたり、有力豪族を中央の官職につけたりして国を治めました。後に天皇と称するようになる前の、強大な権力を持つ王の呼称です。
問8	答え 仏教	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。特に、仏教が持つ高度な建築技術、芸術、そして教えは、当時の朝廷にとって大きな魅力でした。そのため、仏教を受け入れるかどうかを巡り、蘇我氏と物部氏の間で激しい争いが起こるなど、政治的な影響も及ぼしました。
問9	答え 埴輪	埴輪は粘土で作った土製品で、円筒形や冢形、人物、馬などの形をしています。死者を弔うための祭祀の道具として、また埋葬者の権力を周囲に見せつける演出として機能しました。これらを並べることで、墓という空間がより一層格式高いものになったと考えられています。
問10	答え 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。
問11	答え 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。
問12	答え 聖明王	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。欽明天皇に献上された仏像や経典は、日本にとって初めて本格的に触れる異国の教えでした。これが日本に初めて正式な宗教としての仏教が根付くきっかけとなりました。
問13	答え 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。
問14	答え 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借りることで半島への影響力を強めようとしていました。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問15	答え 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道德的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問16	答え 漢字	漢字は、渡来人によって『論語』などの書物とともに日本へ持ち込まれました。初期には、豪族たちが自らの勢力を記録するために鉄刀に名前や文を刻むなどして利用されました。これが後に日本独自の万葉仮名やひらがな・カタカナの誕生へとつながる重要な足がかりとなりました。
問17	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問18	答え ワカタケル大王	ワカタケル大王は、当時のヤマト王権の最高権力者で、一般に雄略天皇と同一人物であると考えられています。稲荷山古墳の鉄剣に名前が刻まれていることは、当時の王権が東国にまで影響力を持っていたことを強く示しています。
問19	答え 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。大仙古墳などはその代表例です。これらの古墳には、亡くなった首長の力や地位を示す副葬品が多数納められていました。
問20	答え 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問21	答え 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学ぶきっかけとなったとされています。